

第 208 回 友の会 甘南備山観察会

～歴史ロマンを感じながら自然観察～

日 時 2022 年 9 月 25 日

場 所 京田辺市甘南備山

天 候 晴れ 気温 29℃

参加者 34 名（内子供 3 名） スタッフ 15 名 計 49 名



まずは、恒例の点呼からスタート。甘南備山の観察会は何年ぶりだろう。今回は秋に咲く足元の草花を主に観察するというコースとなっている。秋はタデ科とマメ科の植物に注目して、細い一本道を縦一列になって歩き始めた。

ネコハギの感触を皆さんに体験してもらい、葉を触ると何とも言えない肌触りで癒される。ツリガネニンジンの花が咲いていて、皆さんスマホで写真を撮っていて人気の高さがうかがえる。

秋はひっつき虫のシーズンだ。無賃乗車の常習犯が種を遠くへ運んでもらおうと虎視眈々二本足のズボンのすそを狙っている。

歩き始めてすぐヌスビトハギやアレチノヌスビトハギの戦略にはまって、タネをズボンにくっつけていた。秋が深まれば、アメリカセンダングサ、オオオナモミ、チヂミザサ、キンミズヒキ、チカラシバ、サジガンクビソウやイノコヅチなどが待ち構えている。

草むらへ踏み込めばこれらのひっつき虫でズボンが覆われ、タネ、種、たねの展示会ようだ。一つ一つ取っていたらだんだんイライラが増してくる。



観察風景

触れば痛い植物がいろいろあった。ビロードイチゴ、イシミカワ、アキノウナギツカミなど。

カラスウリの実はまだ緑色をしていて、しかも葉の陰に隠れていて、見つけにくかったが、スズメウリの実はすぐに見つかった。

帰り道の田んぼの畔には、サクラタデの白い花、真っ赤なヒガンバナが秋の彼岸の頃にふさわしく咲きそろっていた。



カラスウリの実



スズメウリの実

今日の店開きのメインテーマはツリフネソウとワレモコウだ。まずツリフネソウの説明から始まり、花の絵を見せて詳しく説明してくれた。



ツリフネソウの花（上）と
全姿（下）

受粉は花の構造が複雑でマルハナバチが花粉を運ぶ役目を担っている。果実は熟すとわずかな刺激ではじけて種子を飛ばす。ハウセンカが同じ仲間であると聞いて納得した。子供の頃、ハウセンカの果実を触ってはじけさせるか、じっと見ていて自らははじけるまで待ってみるのかどうしようかなと思案していたあの頃を思い出した。こんな気持ちにぴったりの句を見つけた。

鳳仙花いまをはぜよとかがみよる 太田鴻村





ワレモコウ（吾亦紅）

続いてワレモコウの説明に移った。府立植物園へ秋に散歩に行くと、ワレモコウを見ることができる。毎年ワレモコウを見ると秋がきたと感じる。ワレモコウ（吾亦紅）この漢字表記がなぜか興味をかきたてる。

ワレモコウは植物園で見る以外見たことがなかった。生け花では見たことがあるので、生け花用に花卉農家が栽培して出荷している花だと思っていた。

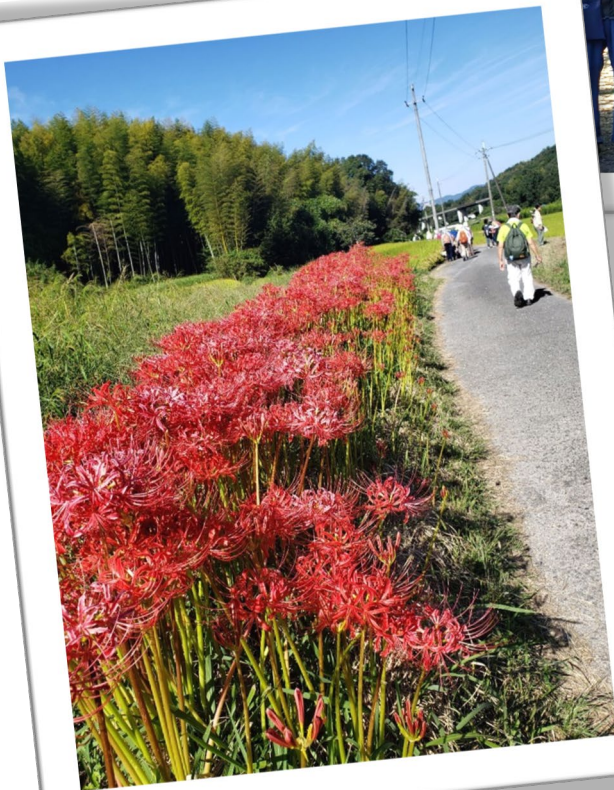
街角の花屋に咲ける吾亦紅 富樫美津子

まさにこの句のまんまだ。甘南備山に自生していることを知り、ますます好きになってきた。紅色の花はとても花には見えない。これは花の咲いた後だと思っていた。今日の説明を聞くと紅色は萼の色で、花弁はない。そして、珍しいことに花は上から順に咲いていくと言われてもあまりピンとこない。ワレモコウには他にはない直線的な形がなんとも言えない存在感を持っている。

文責（弓削俊彬）



キノコクイズ也大盛況



彼岸花に見送られての帰り道